

5月22日に総務文教委員会を開催し、所管する事務事業の調査を次のとおり行いました。

## ・総社市総合計画実施計画に伴う財政見直しについて

### ～内容～

平成24年度から平成26年度までの実施計画が策定されたことに伴い、今後の財政見直しについて調査を行った。

### ～質疑～

**問： 起債がかなり増えているがなぜか。  
サントピアの減免は今後どうなるのか。  
実質公債費比率の今後の見込みはどうか。  
清音神在本線の国庫補助や起債の裏に一般財源を充てるために、市民に直結するような事業が止まってはいけませんが、どのように考えているか。**

**答：**平成24年度と比べて平成25、26年度は大幅に増加しているが、これは臨時財政対策債、学校の耐震及び清音神在本線等の合併特例債、消防救急デジタル無線の緊急防災・減災事業債、区画整理等の一般的な市債である。

それから、サントピアの減免は、平成22年度から平成24年度までの3カ年の減免であり、このままいくと平成25年度から課税することになる。

今の推移で地方交付税が続くとすれば、平成24年度に18%を切る予定である。

現在の水準を維持するように一般財源をできるだけ確保していきたい。

**問： 昨年出された財政見直しより国県支出金を多く見込んでいるが、なぜか。  
実質公債費比率や経常収支比率などの財政指標が良くない。より厳しい財政見直しをたてるべきではないか。**

**答：**昨年示した財政見直しは、平成22年度の決算を基準に作成している。今回の財政見直しは平成24年度の当初予算を基準を作成しており、決算を迎えると若干数字は圧縮されていく。

ここ2年間、ゼロシーリングということで当初予算を編成している。各部各課で事業の見直しや優先順位を考えて予算要求をするようにしており、その中で市民生活に直結するようなものをできるだけ確保しながら、圧縮に努めていきたい。

**問： 財政がいつも厳しいと言うが、財政上の余裕ができるのはいつからか。**

**答：**平成30年度までは公債費が30億円台が続き、平成31年度以降公債費が下がっていくが、平成27年度以降に地方交付税の合併算定替えが予定されており、今の試算では平成27年度から5年かけて地方交付税が10億円程度下がる。財政的な余裕ができるのはいつとは言えない。

**問： 実質公債費比率、経常収支比率、財政力指数の数値の見込みはどうか。  
これらの財政指標を改善するための方策はどうか。やめるべき事業はやめると**

**いう英断をしないと、どんどん財政が悪化すると思うがどうか。**

答： 具体的な数値は立てていないが、実質公債費比率は下がっていく。経常収支比率は今くらいで推移していくと見込んでいる。財政力指数についても今とあまり変わらない。

市民に直結している事業なので、どの事業をやめるというのは難しい。普通建設事業を圧縮して予算を編成していくという状況が続くと見込んでいる。事業をやめるというのは難しいので、企業誘致などで歳入の確保を図っていきたい。

**・市役所西庁舎の耐震診断結果について**

**～内容～**

市役所西庁舎の耐震診断の結果がまとまったことから、調査を行った。

**～質疑～**

**問： 鉄骨枠組ブレースによる耐震補強案が示されているが、どのくらいの費用がかかるのか。**

答： この改修に必要な経費は約1億6,000万円との見積りである。

**問： 耐震補強工事を行う期間は、事務室を移動するのか、ここがそのまま使えるのか。事務室を移動する経費を含めると1億6,000万円では済まないと思うがどうか。**

答： 1億6,000万円という金額は、建物の構造及び設備に係る経費であり、事務室の移転経費は含まれていない。今は西庁舎の耐震診断の結果がまとまっただけで、耐震補強工事を行うことを決めたわけではない。今年度実施予定の本庁舎の耐震診断の結果がまとまった段階で、また協議をお願いしたい。

**問： 市役所全体の耐震補強工事をどういう計画でやっていくかというのはいつ頃決まるのか。**

答： 来年度になると思う。お金のことも大きな要素であるので、そういったことも含めて、また協議をさせてほしい。

**問： 市役所はいざというときに拠点になる場所である。耐震診断の結果と総合的に考えて、市役所という建物をどう守っていくかということを議会と議論する時期をいつまでも後へ後へ回すべきでない。市当局が確固たる信念を持ってやらないと、いざというときに困るのは市民である。そのことを頭に置いてやってほしい。**

答： 全くそのとおりだと思う。本庁舎の耐震診断結果が出るのが来年の今頃になると思うが、言われたことを十分認識しながら、また協議をさせてもらえればと思う。

## ・ 総社西中学校及び総社東小学校の耐震診断結果について

### ～内容～

総社西中学校と総社東小学校の耐震診断の結果がまとまったことから、調査を行った。

### ～質疑～

問： 総社東小学校は、コンクリート強度は何の問題もない数値が出ており、 $I_s$  値（耐震指標）もクリアしていると言っているが、どうするのか。

答：  $I_s$  値は 0.6 が一般的であるが、文部科学省では 0.7 に満たないものは補強することになっているので、総社東小学校の 2 棟についても簡単な補強をしていくことを考えている。

問： 総社西中学校は、増築工事と耐震補強工事を行うということだが、今後のクラス数の見込みはどうなっているのか。柔軟に対応して今は 35 人学級になっているが、これがもっと進んでも統計上は大丈夫なのか。また増築ということにならないか。

これから市内には耐震補強工事を行っていく学校がたくさんあるが、今後のクラス数の見通しを含めて行っていくということを考えてほしい。

答： 将来の見込みをたてて増築をしている。今、総社西中学校では 35 人学級の弾力化を既に行っており、それも見込んだ形での整備である。推計を平成 29 年度までしており、現在の 21 教室が平成 29 年度には 27 教室となるが、今回の増築工事に対応できるという推測である。言われるとおりである。十分考慮しながら進めていきたい。

問： 学校の耐震補強工事の国庫補助率はいくらで、その率がいつまで続くのか。また、国庫補助の裏の起債はどうなっていくのか。

答： 耐震事業なのでかさ上げがあり、 $1/2$  の補助率が  $2/3$  になる。このかさ上げは平成 27 年度までである。国庫補助の裏は合併特例債で、平成 26 年度までである。

問： 耐震補強工事後の  $I_s$  値はいくつになるのか。また、それによってどのくらいの地震まで耐えられるのか。

国の基準を満たしているから大丈夫だということではなく、市としても  $I_s$  値が幾らだったら、どのくらいの地震に耐えられるのかということの裏付けをとってほしい。

答： 文部科学省が示しているのが  $I_s$  値が最低 0.7 であり、耐震補強工事を行うことによってこれはクリアできると思うが、また詳細に設計させてもらいたい。

詳細設計をするときに基本的な考え方を持っていきたい。

## ・ 総社東小学校の校舎増築について

### ～内容～

総社東小学校で生徒数が増え、教室が不足するため、プレハブ工法により校舎を増築することになったことから、調査を行った。

### ～質疑～

**問： 校舎を増築することによって、運動会などの学校行事に弊害はないのか。**

答： 校舎増築部分は現在木があり、これを移転、伐採して増築ということで、学校とも増築する位置については協議している。

**問： 保護者、PTAとも協議をした上での決定なのか。**

また、プレハブ工法により校舎を増築ということだが、今後いろんなところで校舎が足りないという問題が起こったときに、これが前例となって全てプレハブ工法になるのか、それとも、そのときに妥当な物を考えるのか。

答： 年度末に急遽教室が足りないことが分かったので、学校から保護者に説明し、その了解をとったことから、建築ということである。

一つの選択肢にはなるが、将来推計も含めて、学校長やPTAと意見交換をしながら、適切なものに対応していきたい。これが前例となって全てプレハブ工法ですという考えはない。

## ・ 西公民館久代分館の移転整備事業について

### ～内容～

西公民館久代分館の移転整備事業の今後の計画について調査を行った。

### ～質疑～

**問： 久代分館は昭和54年に建築されたということだが、昭和54年頃に建築された公民館、分館が市内にはどのくらいあるのか。また、どういう要望があって、どのような計画で行おうとしているのか。**

公民館は市民の生涯学習の場であり、大切な学びの場である。古いところはまだまだあり、先にしなければいけないところがあると思うがどうか。

答： 昭和30年頃に日美分館、昭和40年代に昭和公民館と久代分館、昭和50年代に、昭和51年の西公民館を筆頭に、11館が集中して建築されている状況がある。日美分館、昭和公民館、中央公民館は大規模な施設であり、昭和公民館についても様々な要因があることから、古い

ものから順番にということは難しい。古い分館等を優先して、地域の実情などを考え合わせながら、計画的に建設していきたい。

**問： 久代分館の移転整備事業でどのくらいの面積を買収するのか。**

答： 面積は 4,000 ㎡を予定している。

## ・移動図書館車のデザインについて

### ～内容～

昨年度納入された移動図書館車のデザインのあり方について調査を行った。

### ～質疑～

**問： 移動図書館車の雪舟文庫という名にふさわしい絵を入れるということだが、市内には優秀な人材を多く輩出し、包括協定を結んでいる県立大学がある。市内の大学の人材を生かして、十分活用してもらえるような親しみやすいデザインにしてもらったらどうか。**

答： 意見を検討し、雪舟文庫という名にふさわしい、観光プロジェクトの報告にもあるような総社市のデザインを入れていきたい。

**問： 国の補助で移動図書館車を購入したということだが、業者が納車のときに絵も描いてくるのが普通である。これから絵を描けばお金が要るのではないか。なぜ今さらデザインなのか。これは水戸岡鋭治氏にデザインをしてもらうのか。**

答： 国の補助が平成 22 年度のものであり、タイの洪水等で生産が大幅に遅れたが、再度の繰越しができないため、今のようなデザインになった。観光プロジェクトの中で総社市のデザインを統一するという考えがあり、そのデザインをしたのが水戸岡氏であるので、水戸岡氏にデザインをお願いしたいと考えている。

**問： これは市長の肝入れなんだろうが、デザイン料はどうするのか。どのくらいかかるのか。**

答： 6 月議会で補正予算を提案したいと考えている。参考に話した中では 70 万円弱と聞いている。

**問： ちゃんと考えて、納車のときまでに絵を描いてもらってれば、お金は要らなかった。財政が厳しく、ゼロシーリングと格好よく言っているが、そのあおりで幼稚園の教育用具はガムテープで補修などしながら使っているような状況である。市内しか走らせないものに超有名デザイナーの絵がどれだけ効果があるのか。気に入らなくても断れないなど、デメリットが多くあると思うがどうか。この移動図書館車に 70 万円以上の経費をかけてやる必要があるのか。そんなお金があれば、他に要るところはたくさんある。**

答： 予算が厳しい状況であるので、観光プロジェクトのデザインを全て一度にということができないので、予算の範囲内で増やしていき、長い期間の中で総社のデザインを統一していき

たいと考えており、今回この移動図書館車を水戸岡氏にお願いしようと考えているところである。デザイン料が70万円、その後の塗装費用がまた余分にかかるということは認識している。

問： れとろーどは人気があるが、水戸岡氏がデザインしたのれんは人気が悪い。いくら市長が言っても、いけないことはいけないと貫くべきである。図書館は最近高齢者の利用が多いが、トイレは和式である。1つは洋式にするなど、利用者の利便性に目を向けたお金の使い方をすべきでないか。

答： 公共施設でのそういうトイレの話はいろいろ聞いている。予算の範囲内でそういう改修をしていきたいと考えている。協議をしていきたい。

#### ～自由討議～

こちらが質問したら、水戸岡氏にお願いしようと考えているとの答弁があった。水戸岡氏に決めるのではなく、もう一度白紙に戻すべきと本委員会としては言うべきである。今は総社市立図書館雪舟文庫という文字が書いてあるので何の車かは分かるので、焦る必要はない。

図書館のトイレの話をしたが、市民が何とかしてほしいというのがどこでもあるが、財政が厳しいのでできない。補正予算を出してきたら、修正をしてでも止めてあげないと、教育委員会がかわいそうである。本委員会がきちんとしてあげないと、教育委員会の職員はいつ市長部局に帰るか分からないので、大変である。

他の委員の言われるとおりである。今の文字だけのデザインより何かあった方がいいと思うが、市長がこういうことをしてパフォーマンスをしていこうのが見え見えである。市長から職員を守るために、今日の委員会の意見を集約して伝えるべきである。

委員会の意見を真摯に受け止めて、予算を出すのを待つように当局に伝えるべきである。